

PRAEVIDENTIA DAILY (12月9-12日)

昨日までの世界：雇用統計前に逆戻り…

週明けの昨日は、ドル/円が先週金曜の市場予想を大幅に上回る雇用統計を受けた大幅上昇が早朝まで続き、一時121.84円へ続伸した後、欧米時間にかけて上昇分以上に反落する展開となったのが特徴的だった。米景気や米利上げ期待に関する悪い材料はなかったが、原油価格の続落や米株安を受けた米長期債利回りの低下を眺め、利食いが入ったとみられ、一時120.18円と雇用統計発表前の水準である120円台半ばを下回った。この間、本邦経済指標では、10月分経常収支(季節調整前)は+8334億円の黒字と、前月と同程度で市場予想を上回る黒字幅だったのはどちらかといえば円高要因だが、あまり反応はみられず、3Q GDP改定値は前期比年率-1.6%と市場予想より悪かった。低い成長率は、将来の追加緩和期待や日本売りのな面にも繋がり円安要因で、株価に悪影響を与える範囲において円高要因となり得たが、こちらもあまり市場の反応はみられなかった。

ユーロ/ドルは、ドイツ鉱工業生産が前月比+0.2%と市場予想を若干下回ったほか、量的緩和は景気支援で重要な役割を果たすというNowotnyオーストリア中銀総裁発言を受けて続落し、一時1.2245ドルと年初来安値を下回った。但しその後は対円などでのドル安につれたとみられ、1.23ドル台を回復して引けている。

豪ドルは、中国貿易統計で輸入が前年比-6.7%と予想外の大幅マイナスとなったことを受けて対米ドルで一時0.8258ドルと年初来安値を更新した。

主要通貨ペアの前営業日比変化率と、連動性が高い金利・株価・商品市況の変化

	変化率	米日2年金利差	米2年金利	日2年金利	米日10年金利差	米10年金利	日10年金利	米株価	日株価	原油Brent
ドル/円	-0.7	-0.00	-0.01	-0.01	-0.06	-0.05	+0.02	-0.7	+0.1	-4.1
	変化率	独米2年金利差	独2年金利	米2年金利	独米10年金利差	独10年金利	米10年金利	欧株価	米株価	西伊の対独格差
ユーロ/ドル	+0.3	-0.00	-0.01	-0.01	-0.02	-0.07	-0.05	-0.7	-0.7	+0.04
	変化率	英米2年金利差	英2年金利	米2年金利	英米10年金利差	英10年金利	米10年金利	英株価	米株価	
ポンド/ドル	+0.5	-0.03	-0.04	-0.01	-0.01	-0.06	-0.05	-1.0	-0.7	
	変化率	豪米2年金利差	豪2年金利	米2年金利	豪米10年金利差	豪10年金利	米10年金利	米株価	中国株価	CRB
豪ドル/米ドル	-0.3	+0.04	+0.04	-0.01	+0.09	+0.04	-0.05	-0.7	+2.8	-1.7
	変化率	NZ-米2年金利差	NZ2年金利	米2年金利	NZ-米10年金利差	NZ10年金利	米10年金利	米株価	中国株価	CRB
NZドル/米ドル	-0.6	+0.01	+0.00	-0.01	+0.08	+0.03	-0.05	-0.7	+2.8	-1.7
	変化率	米加2年金利差	米2年金利	加2年金利	米加10年金利差	米10年金利	加10年金利	米株価	原油WTI	CRB
米ドル/加ドル	+0.3	+0.01	-0.01	-0.02	+0.02	-0.05	-0.06	-0.7	-4.2	-1.7

(注) 為替相場、株価および商品価格は前営業日比変化率、金利は前営業日比変化幅(%ポイント)。

(出所) トムソン・ロイター、プレビデンティア・ストラテジー

きょうの高慢な偏見：円高は輸入企業に恵みの雨

きょうの注目通貨：USD/JPY ↑

きょうの指標、イベント	時刻	前期	市場予想	備考
<9日>				
豪 11 月 NAB 企業景況感	9:30	12.7		
同企業信頼感	9:30	4.0		
英 10 月鉱工業生産・前月比	18:30	+0.5%	+0.2%	
<10日>				
中国 11 月新規人民元建て融資・元	9:01	5483 億	6500 億	
豪 10 月住宅ローン・前月比	9:30	-0.7%		
中国 11 月 CPI 前年比	10:30	+1.6%	+1.6%	今年の政府目標は+3.5%
南ア 11 月 CPI 前年比	17:00	+5.9%	+5.8%	インフレ目標上限は 6.0%
トルコ 3Q GDP 前年比	17:00	+2.1%	+3.0%	
RBNZ 金融政策決定 (11 日)	5:00	3.50%	3.50%	
<11日>				
豪 11 月新規雇用者数	9:30	+2.4 万人	+1.5 万人	
同失業率		6.2%	6.3%	
スイス中銀金融政策決定	17:30			
米 11 月輸入価格・前月比	22:30	-1.3%	-1.8%	
米 11 月小売売上高・総合前月比	22:30	+0.3%	+0.4%	
同コア小売売上高・前月比		+0.5%	+0.4%	除く車、ガソリン、建築資材
米新規失業保険申請件数	22:30	29.7 万件	29.5 万件	
ECB、第 2 回 TLTRO 実施・ユーロ		826 億	1300 億	
<12日>				
中国 11 月固定資産投資・年初来	14:30	+15.9%	+15.8%	
同鉱工業生産・前年比		+7.7%	+7.5%	
同小売売上高・前年比		+11.5%	+11.5%	
ユーロ圏 10 月鉱工業生産・前月比	19:00	+0.6%	+0.2%	
米 11 月コア PPI 前年比	22:30	+1.8%	+1.8%	
米 12 月ミシガン大消費者信頼感・速報	23:55	89.4	89.5	
<14日>				
本邦衆院選				連立与党の勝利見通し

(出所) トムソン・ロイター等を基にプレビデンティア・ストラテジー作成

本日は内外で材料が少ない中、オーバーナイトでの円高と米株安を受けて日経平均が下落すると、ドル/円も下押し圧力を受けようがサプライズではないことからあまりインパクトはなく、むしろドル押し目買いが入り易く、ドル/円は底固めの展開となりそうだ。週後半に向けては、11 日の米小売売上高や 12 日のミシガン大消費者信頼感指数で米景気の堅調が確認されれば、122 円乗せを試す展開となりそうだ。週末の衆院選における連立与党の勝利見通しの強まりも、アベノミクス継続から円売り要因となり易そうだ。

豪ドルは、本日の NAB 企業景況感は前月の大幅改善からの反落が予想されているほか、信頼感も悪化継続が予想されている。また、11 日の豪雇用統計では、RBA 政策金利との連動性が高く注目度が高い失業率の上昇が予想されていること、更に中国でも 10 日の CPI や 12 日のその他主要経済指標も概ね伸び率鈍化が予想されていることから、豪ドルにとっては下押し圧力が続きそうだ。なお 10 日発表の新規人民元建て融資については、最近の中国当局の金融緩和姿勢もあってか増加が予想されているが、一方でシャドーバンキング撲滅に向けた動きや企業財務の悪化を受けた銀行の貸出意欲低下などもあって、大きくは増加しにくそうだ。

ユーロ圏では 11 日の第 2 回テルトロ結果が注目される。低調だった前回と比べて供給額の増加が予想されているが(ロイターポールでは 1300 億ユーロ)、それでも当初予定されていた 2 回合計で 4,000 億ユーロには及ばず、予想を下回る場合には ECB のバランスシート拡大遅延からユーロ買戻しリスクとなる。とは言え、テルトロや ABS 購入等でバランスシートを拡大できない場合には、逆に量的緩和の必要性を強めることから、ユーロ安要因として深読みされる可能性もあり、結果として反応が小さくなりそうだ。

ディスクレイマー

当資料は情報提供のみを目的として作成されたものであり、金融商品の売買や投資など何らかの行動を勧誘するものではありません。ご利用に関しては、全てお客様ご自身でご判断下さいますようお願い申し上げます。

当資料は信頼できると思われる情報に基づいて作成されていますが、当社はその正確性を保証するものではありません。内容は予告なしに変更することがありますので、予めご了承下さい。

当資料は著作物であり、著作権法により保護されています。全文または一部を転載する場合は出所を明記して下さい。当資料は購読者向けに送付されたものであり、購読者以外への転送を禁じます。

プレビデンティア・ストラテジー株式会社
金融商品取引業者（投資助言・代理業）関東財務局長（金商）第 2733 号
一般社団法人 日本投資顧問業協会 会員番号 012-02641